

第4節 身近な学びと交流のあるまちをつくるために

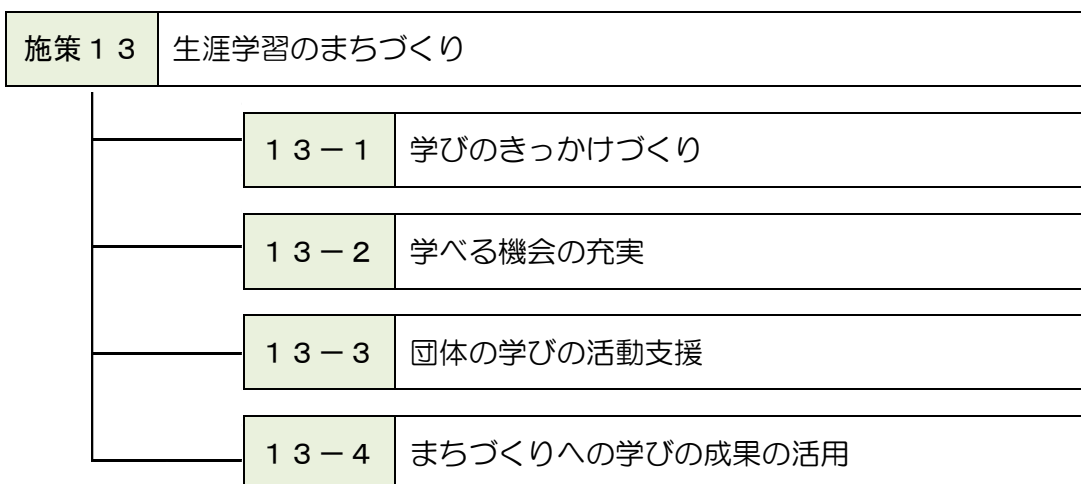
4-1 出合いや交流の輪の中で、すべての世代が自分らしく学べるまち

施策13 生涯学習のまちづくり

目的	対象	市民
	意図	生涯にわたり学習し、学んだことをまちづくりに生かす

✚ 施策の方向と基本的取組の体系

市民が生涯を通じて学習に取り組み、いきいきと豊かな人生をおくることができるよう支援するとともに、学んだ成果が市民同士の交流やまちづくりに生かされるよう、生涯学習を振興していきます。



時点修正のポイント（修正基本計画における新たな課題や継続的な主要課題等）

- 相互友好協力協定締結大学との連携
- シニア世代のまちづくりへの参加促進
- 改定教育プランとの整合

✚ 現状と課題

- 生涯学習は、人々が自己の充実や啓発、及び生活の向上のために、必要に応じて各自に適した手段・方法で、自発的意思に基づいて、生涯を通して行う学習のことです。
- 生涯学習を振興するには、調布市民が、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができるよう、学習環境を整備するとともに、学習成果を地域社会に活用し、地域社会全体の向上に生かせる環境づくりが必要です。

- 市民が生涯学習情報を簡単に見つけられるよう、「さがす見つかるシステム」を活用した情報提供を行っています。同時に、シニア世代の学習活動及びまちづくりへの参加の促進を行うため、地域デビュー歓迎会等のきっかけづくりを行っています。
- 調布市は多様な特色を持つ、市内・近隣大学等と、相互友好協力協定を締結し、生涯学習やまちづくりの多くの分野で連携を図っています。引き続き、連携を強化しつつ事業を展開していくことが重要です。
- 文化会館たづくりは、市民の芸術・文化や生涯学習活動の拠点として、毎年延べ170万人以上の市民が利用しています。
- 働き方や価値観の多様化等により、市民の生涯学習ニーズは多岐にわたっています。その学習意欲に対応するために、大学、民間企業、自主学習グループ、ボランティア団体など、様々な機関や団体と連携し、市民のニーズや社会情勢に対応した内容を提供するなど、学習の機会の多様化と充実が求められています。
- 調布市内に11館ある図書館は、市民にとって最も身近な学習の場として市民の学習を支援しています。今後の図書館は、地域の情報拠点としての機能と、読書や交流の場の機能を備えたものであることが期待されます。そのためには、多様な媒体の資料や情報の収集、利用者の課題解決につながる資料、映画・地域資料の充実、学校図書館や他の生涯学習施設等と連携を行う必要があります。
- 公民館は、身近な学習を自らの生活に生かし、その成果を地域の活性化につなげていけるよう、地域の課題解決に向けた支援を行うことが求められています。

✚ 基本的取組の内容

13-1 学びのきっかけづくり

◆多様なきっかけづくり

生涯学習の普及啓発をはじめ、生涯学習の拠点施設である文化会館たづくりや公民館・図書館・博物館等の社会教育施設での講座やイベント、生涯学習出前講座の実施や地域デビュー歓迎会*など、多様な学習のきっかけづくりに努めます。

※地域デビュー歓迎会

主にシニア世代を対象に、学習活動や地域活動に参加するきっかけづくりとして交流会や講演会などを実施している事業

◆学びに関する情報提供及び相談の実施

生涯学習情報システム（さがす見つかるシステム）を活用し、市民が学習を始めたい時、学習成果を生かしたい時など、様々な場面に応じて適切な情報提供が行える環境を提供するとともに、民間機関が提供する学習情報も幅広く収集し、提供します。さらに、学習成果の発表や仲間づくり、成果の生かし方などの相談に応じます。

◆だれもが学びやすい環境づくり

子ども・青少年、成人、高齢者、障害者（児）、外国籍市民など、だれもが、いつでもどこでも学べる環境づくりを進めます。また、子ども・青少年には運動や様々な体験・交流を通じた学習機会、高齢者には生きがいや仲間づくりにつながるような学習機会など、年代やニーズ

第3編 分野別計画

に応じた機会の提供や支援を行います。

◆子どもの読書活動に関わる意識啓発

子どもの頃から読書の習慣を身につけ、読書を通じて豊かな心が育まれるよう、家庭や学校、地域などの大人も含めた意識啓発を行います。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値	目標値
生涯学習情報システムのアクセス数	54,866 件 (平成 25 年度)	68,000 件 (平成 30 年度)

基本計画事業

事業名	生涯学習情報システム（さがす見つかるシステム）の活用
事業の内容	生涯学習情報コーナーと市民活動支援センターの情報を一元管理し、生涯学習・市民活動に関する団体・人材・各種イベント・施設等の情報を分かりやすく市民に提供します。

事業名	シニア世代の学習活動及びまちづくりへの参加の促進
事業の内容	シニア世代の豊かな知識や経験を生かし、地域で活躍してもらえよう、地域デビュー歓迎会を実施し、各種活動への参加のきっかけづくりを行うとともに、サークル体験事業や体験事業参加団体による体験発表会を行います。

13-2 学べる機会の充実

◆自己実現につながる学びの推進

多様化する学習ニーズに対応するため、文化・芸術・スポーツに接する機会や学習機会の提供を行うほか、資格やキャリアアップ、起業、就労に関する学習のニーズに対応した職能教育につながる学習機会の提供などを行います。

◆暮らしや地域の再発見につながる学びの推進

公民館等において、防災・防犯、消費生活などの生活に必要な知識・技能に関することや環境問題などの地域環境に関することなど、多様な機会の提供を行います。また、市内の歴史・文化資源などを活用した学習活動を通じて、地域の魅力や課題を再認識できる事業の展開を図ります。

◆図書館サービスの提供

図書館がより効果的な学習活動の拠点・文化・生活を支えるインフラとして機能するよう、図書館システムの計画的な更新を図るとともに、多様な媒体の資料や情報、課題解決につながる資料、映画・地域資料の収集と提供を行います。また、図書館利用に障害のある方へのサー

ビスの充実を図ります。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値	目標値
公民館や図書館の満足度	68.8% (平成 25 年度)	80.0% (平成 30 年度)

基本計画事業

事業名	図書館の資料の収集・整理・提供・保存
事業の内容	広く多様な資料・情報の選定・収集・保存をし、利用者が検索しやすい資料目録データの整備や資料に適した整理を行います。また、学習及び多様な文化活動に資するため、必要な資料を迅速に提供します。

13-3 団体の学びの活動支援

◆団体の自主的な活動への支援

生涯学習に関連する団体・グループの自主的な活動を維持・継続していくための支援やみんなの広場の活用により利用団体の交流を図るなどの支援を行います。

◆活動場所の確保及び提供

文化会館たづくりや公民館などの生涯学習・社会教育施設の管理や整備，市内の学習関連施設の有効活用など，市民が学習活動を行うことができる場所の確保を図ります。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値	目標値
生涯学習情報システムの登録団体数	800 団体 (平成 25 年度)	840 団体 (平成 30 年度)

基本計画事業

事業名	シニア世代の学習活動及びまちづくりへの参加の促進【再掲】
事業の内容	シニア世代の豊かな知識や経験を生かし、地域で活躍してもらえよう、地域デビュー歓迎会を実施し、各種活動への参加のきっかけづくりを行うとともに、サークル体験事業や体験事業参加団体による体験発表会を行います。

13-4 まちづくりへの学びの成果の活用

◆学びの成果をまちづくりに生かす機会の提供

調布市生涯学習振興プランに基づき、学習を通じた交流や仲間づくりを促進するため、市民の学習成果を発表する機会の提供に取り組むとともに、市民活動支援センター等において、生涯学習で身につけた知識・技能や経験を、ボランティア活動等に生かそうとする人と、地域人材を求めている人や場をつなげるコーディネートを行い、市民の活動を支援します。

また、調布市社会教育計画に基づき、公民館など社会教育施設を中心に地域の学習活動の企画や運営等に市民が参加し、意見交換や交流をすることで、地域人材の活用と地域の活性化を図ります。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値	目標値
学習の成果をまちづくりに生かしている市民の割合	16.2% (平成25年度)	25.0% (平成30年度)

基本計画事業

事業名	多様な公民館事業の推進
事業の内容	市民の学習意欲に応える事業の実施はもとより、地域の抱える課題や地域の特性を題材にした事業を展開し、地域に密着した公民館活動により、地域活性化に寄与します。



参加と協働の視点 ～市民等に期待される役割～

- 市民は、様々な生涯学習の機会に自主的に参加するとともに、学習を通じて得た知識や成果を、仲間づくりやまちづくりに生かすよう努めます。
- 事業者や教育機関は、市民の様々な学習ニーズに対応した多様な学習機会の提供に協力します。



第3編 分野別計画

4-2 だれもが気軽にスポーツを楽しみ、元気になるまち

施策14 市民スポーツの振興

目的	対象	市民
	意図	だれもがスポーツに親しみ、楽しむことができる スポーツを通して交流がはぐくまれる だれもがスポーツを通して心身ともに健康になる

✚ 施策の方向と基本的取組の体系

年齢や障害等を問わず、広く市民がスポーツに親しみ、楽しめる環境を整備します。また、スポーツを通して市民の交流が盛んになるまちを目指します。

施策14	市民スポーツの振興
	14-1 スポーツ環境の整備
	14-2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
	14-3 FC東京等とのパートナーシップ

時点修正のポイント（修正基本計画における新たな課題や継続的な主要課題等）

- 2020年オリンピック・パラリンピックに向けた取組の推進
- スポーツボランティアの活動促進

✚ 現状と課題

- 平成23年8月のスポーツ基本法の施行後、平成24年3月には、国のスポーツ基本計画が策定され、地方自治体にもスポーツの推進が求められています。
- 調布市が実施しているスポーツ関連事業等の参加者数は横ばいですが、市民個々でスポーツをする習慣が定着しつつあります。今後、より多くの市民が日頃からスポーツを実践できるよう、世代や能力に応じたスポーツを始めるためのきっかけを提供していくことが望まれます。
- 調布市では、生涯スポーツ社会の実現に向け、スポーツ・レクリエーション環境の充実、市民スポーツ活動の支援、指導者の育成・充実、FC東京とのパートナーシップなどに取り組んでおり、今後も、より多くの市民が気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境づくりに努める必要があります。

- 今後、スポーツ振興を推進していくためには、地域スポーツクラブの育成・推進や、スポーツレクリエーション活動などを支える指導者の育成などのほか、施設の老朽化に対応した計画的な維持管理などの、ソフト・ハード両面から環境整備を進める必要があります。
- 市内には、味の素スタジアムに代表される大規模施設から身近な各地域の施設まで、様々なスポーツ施設が整備されています。また、味の素スタジアム西側において、東京都が（仮称）武蔵野の森総合スポーツ施設（メインアリーナやサブアリーナ、屋内プールなど。平成28年度竣工予定）の建設を進めています。
- 市のスポーツ施設は、昭和50年代につくられた施設が多く、老朽化に対応した計画的な維持管理が必要です。また、利用状況を踏まえた施設機能の在り方を検討する必要があります。
- FC東京は、調布市と連携して小学校へのキャラバン隊サッカー教室や知的障害児向けサッカー等の教室、講習会などを数多く実施しています。市民にとってはプロの技術を間近で見ることができ、多くの夢と希望を与えてくれています。今後も地域にゆかりのあるチームや選手を応援し、市民がスポーツに親しむ機会づくりや交流をより充実させていくことが求められます。
- 平成25年に開催された「スポーツ祭東京2013（第68回国民体育大会・第13回全国障害者スポーツ大会）」の取組成果や盛り上げりを、今後のスポーツ振興につなげていくことが重要です。
- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会において、調布市に立地している味の素スタジアム及びその周辺施設では、サッカーや自転車ロードレースなどの開催が予定されています。
- 調布市は、オリンピック会場に予定されている味の素スタジアム及びその周辺施設の立地市として、スポーツ分野をはじめとする様々な分野において、都や関係団体などと連携して取り組んでいくとともに、大会運営ボランティアのみならず、地域活性化に供する体制づくりや、ボランティアの育成を推進していくことが重要です。
- 子どもが安心して外で遊べる場所が少なくなり、児童・生徒の体力低下が問題とされ、また高齢化に伴い健康維持の重要性が高まるなど、障害を持っている人を含め各ライフステージにおいて運動を習慣づけていくことが重要となっています。

基本的取組の内容

14-1 スポーツ環境の整備

◆スポーツ施設の整備

スポーツ施設をより効率的かつ効果的に維持管理・運営していくため、各施設の利用実態や老朽化の状況などを踏まえ、利用者の声や地域の特色を生かした安全で利便性の高いスポーツ施設の整備に努めます。

調布基地跡地における留保地（国有地）については、公園の整備に向けた国との協議を踏まえ、スポーツ施設の段階的な整備の検討を進めます。

◆スポーツ・レクリエーション情報の提供の充実

より多くの市民がスポーツ・レクリエーション活動に主体的に参加できるよう、様々な媒体を活用してスポーツ施設やイベントに関する情報を分かりやすく魅力的に発信するなど、スポーツ・レクリエーション情報の提供の充実を図ります。

◆スポーツ指導者の育成

公益社団法人調布市体育協会などの関係団体との連携・協力のもと、アスリートを目指す活動や地域住民による主体的なスポーツ・レクリエーション活動などを支える指導者の育成と資質の向上を図ります。

◆次世代アスリートの発掘・支援

調布市体育協会と連携し、スポーツ教室や地域のスポーツ大会など、子どもたちのスポーツ活動を通じて、次世代を担う優秀なスポーツ選手の発掘・支援に取り組みます。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値	目標値
体育施設の年間利用者数	931,927人 (平成25年度)	950,000人 (平成30年度)

基本計画事業

事業名	スポーツ施設の整備
事業の内容	スポーツ施設の計画的な維持保全・改修を行います。

14-2

ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

◆だれもがスポーツに参加できる機会の充実

それぞれの年齢や体力などに応じ、より多くの市民が生涯を通じてスポーツに親しむことができるよう、市民体育祭やスポーツまつり、市民駅伝競走大会、リフレッシュ健康体操事業等を引き続き実施し、子どもから高齢者まで、各世代のニーズに合わせたスポーツ参加機会の充実を図ります。また、全国障害者スポーツ大会の開催を契機として、障害者スポーツの支援に取り組みます。

◆地域スポーツクラブ等の育成・推進

スポーツ・レクリエーション活動を通じて、地域コミュニティの活性化にもつながるよう、地域スポーツクラブを育成するとともに、市内の企業や大学などと連携・協力しながら、地域に根差したスポーツ・レクリエーション活動の充実に努めます。

◆地域における子どものスポーツ機会の確保

身近な地域で子どもがスポーツを楽しめる環境づくりを進めるため、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団等と連携したスポーツ教室や地域のスポーツ大会の開催など、スポーツ参加の機会の確保を図ります。

◆2020年オリンピック・パラリンピックに向けた取組の推進

オリンピック会場に予定されている味の素スタジアム及びその周辺施設の立地市として、オリンピックに向けて、スポーツ分野をはじめとする様々な取組において、国や都の動向を注視し、関係団体などと連携して取り組んでいきます。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値	目標値
運動を週に1回以上行っている市民の割合	55.9% (平成25年度)	70.0% (平成30年度)

基本計画事業

事業名	調布市体育協会事業の支援
事業の内容	調布市体育協会との相互協力により、市における体育・スポーツを振興、市民の健康増進及び体力向上を図ります。

事業名	オリンピック・パラリンピックに向けた取組の推進《新規》
事業の内容	オリンピック会場に予定されている味の素スタジアム及びその周辺施設の立地市として、オリンピックに向けて、スポーツ分野をはじめとする様々な取組において、国や都の動向を踏まえ、関係団体などと連携して取り組んでいきます。

その他の主な事業

- ・三大スポーツイベントの開催（市民体育祭，市民スポーツまつり，市民駅伝競走大会）

14-3 FC東京等とのパートナーシップ

◆FC東京との協働のまちづくり

味の素スタジアムを本拠地とするFC東京とのパートナーシップのもと，FC東京のコーチによる子どもサッカー教室や，にこにこサッカー教室，小学校へのコーチの派遣など，青少年の健全育成や市民の健康づくりを推進します。また，市民スポーツまつりや様々なイベントでも連携・協力するなど，地域貢献活動を通して協働のまちづくりを推進します。

◆地域ゆかりのチームや選手を通じたスポーツ振興

FC東京をはじめ，調布市にゆかりのあるプロスポーツチームやスポーツ選手を応援し，スポーツに親しむ機会づくりや交流を促進します。

まちづくり指標

まちづくり指標	基準値	目標値
FC東京等と連携したスポーツ事業の参加者数	861人 (平成25年度)	900人 (平成30年度)

基本計画事業

事業名	プロサッカーチームによる地域貢献活動支援
事業の内容	プロサッカーチームのFC東京が行う地域貢献活動を支援し，市民スポーツの振興，青少年の健全育成，地域振興等，まちづくりを協働して推進します。



参加と協働の視点 ～市民等に期待される役割～

- 市民は，年齢や体力などに応じ，スポーツに親しむように努めます。
- 事業者は，市民のスポーツ参加機会の充実を支援するとともに，スポーツの振興と地域の活性化に協力します。

